

平成 22 年度 幹線鉄道旅客流動実態調査について

1. 調査の目的

全国の幹線鉄道の特急列車等を利用した旅客の流動等を調査し、需要予測モデルの構築と予測、費用便益分析等の交通政策や交通施設整備計画など、今後の幹線鉄道に関する政策の分析・検討等を行うための資料を作成すること及び、陸・海・空にわたる総合的な交通体系の整備を進める上で重要な全国旅客純流動調査の基データとして、様々な視点からの幹線旅客流動の実態を明らかにすることを目的としています。

2. 調査の概要

■調査の沿革

平成 22 年度より、統計法（平成 19 年法律第 53 号）第 19 条に基づく一般統計調査として、実施しています。

■調査の根拠法令

統計法（平成 19 年法律第 53 号）

■調査の対象

[1] 調査対象の範囲

ア) 地域的範囲

全国

イ) 属性的範囲

幹線鉄道の特急列車等の利用客

[2] 報告を求める者

平日・休日 各 14.3 万人（母集団の数は平日約 84.4 万人、休日約 82.5 万人）

■抽出方法

[1] 目標獲得サンプル数の算出

本調査は都道府県間の流動量の平均的な信頼性として、信頼水準 95%、相対誤差 20%を確保することを目標値として設定しています。前回調査（H17 年度調査）の結果から、目標値を達成するための目標獲得サンプル数を下記の式により設定しています。

目標獲得サンプル数＝前回の獲得サンプル数×（前回の相対誤差／今回目標とする相対誤差）²

※前回の獲得サンプル数：平日 76,000 人、休日 75,000 人 前回の相対誤差：平日 20.5%、休日 20.6%

〔2〕 調査対象列車の選定について

（1） 調査対象列車選定基準

1） 特急列車及び新幹線鉄道の列車の選定基準

原則として夜行列車を除くすべての JR 特急列車及び新幹線鉄道の列車を対象としますが、中長距離旅客を中心とした旅客流動の大層を掴む観点から、下記のような特急は除いています。

- ア） 運行区間が同一県内に限られる列車系統
- イ） 通勤対応列車

2） 急行列車等の選定基準

急行列車、快速列車等の特急列車以外の速達型の列車（以下、急行列車等）については、特急列車並の役割を担っている可能性がある下記特徴を満たす列車グループを選定しています。

- ア） 運行本数が比較的多く（1 日 5 往復以上）運行区間が県外にわたる列車グループ
- イ） 通勤対応ではない列車グループ
- ウ） 夜行ではない列車グループ
- エ） 愛称名のある列車グループ

3） 私鉄特急列車の選定基準

中長距離旅客を中心とした旅客流動を把握するという本調査の目的及び限られた予算の中で必要な精度を確保する必要があるという状況を鑑み、都市圏内輸送を中心とする私鉄は原則として調査対象としておりません。ただし、県間を跨ぐ長距離旅客が比較的多く利用すると思われ、JR との比較をする観点から注目すべき列車を調査対象として追加しています。

■調査事項

- ・ 旅行目的
- ・ 宿泊の有無
- ・ 旅行行程（片道の出発地、乗降・乗り換え駅、到着地）

- ・旅行中立ち寄った地の有無
- ・旅行人数
- ・きっぷの種類
- ・旅行者の属性（住所、性別、年齢、職業）

■調査の時期

5 年を周期として、当該年 11 月頃の平日 1 日及び休日 1 日を調査日とし、調査当日に配布・回収を行っています。

■調査の方法

[1] 実施系統

国土交通省、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構—民間事業者—報告者

[2] 調査方法

民間事業者の調査員が、旅客に対し車内で調査票を配布・回収しています。

国土交通省では、今後の幹線鉄道に関する政策の分析・検討等を行うために、幹線鉄道旅客流動実態調査を実施しております。皆様のご協力をお願いいたします。用紙は後ほど調査員が回収にうかがいます。いただいたデータについては、統計的に処理いたしますのでみなさまにご迷惑をおかけすることは一切ございません。

【記入上のご注意】 該当する番号を○で囲むもの、の中に番号、地名や駅名を記入するものがあります。本日すでに他の列車でお答えいただいた方は、ご記入は不要です。

問1 本日のご旅行の目的は？（主なものをひとつ）

- 1 仕事 2 観光・行楽・レジャー[※] 3 観光以外の私用・帰省 4 通勤・通学 5 その他
（または仕事の帰り） （または観光等の帰り） （または私用・帰省の帰り）

※観光（名所・旧跡・、催し物等を見る）・保養（温泉、家族・知人との交流等）・スポーツ・体験型レジャー（遊園地・ドライブ・釣り・写真等）を含む

問2 本日のご旅行は、何泊何日ですか？

- 1 日帰り 2 泊日
-----▶ 本日の行程は何日目ですか？日目

問3 本日の行程をご記入下さい。（日帰りの方は現在の片道の行程だけをお答えください。）

出発

最初の鉄道駅

この列車の乗車駅

この列車の降車駅

最後の鉄道駅

到着

本日の出発地は？（日帰りの方は現在の目的地に向けた片道の行程における出発地）

1 自宅 2 その他… 都道府県 市区町村名がわからない場合は、目印となる駅名、ホテル名、観光地名など

（国）外国からお帰りの方は国名をお書きください。

本日の出発地から最初の鉄道駅までの交通機関をご利用の順に口内に番号をご記入ください。

本日の出発地 → → → → 最初の鉄道駅

1. 自転車・バイク・徒歩 2. 乗用車（送迎） 3. 乗用車（駐車場利用） 4. レンタカー
5. タクシー・ハイヤー 6. 市内バス 7. 高速バス 8. 航空機 9. フェリー/旅客船
10. その他（）

この列車に乗車するまでに乗換えた場合

駅 駅 駅

最後の鉄道駅に至るまでに乗換える場合

駅 駅 駅

最後の鉄道駅から到着地までの交通機関をご利用の順に口内に番号をご記入ください。

最後の鉄道駅 → → → → 到着地

1. 自転車・バイク・徒歩 2. 乗用車（送迎） 3. 乗用車（駐車場利用） 4. レンタカー
5. タクシー・ハイヤー 6. 市内バス 7. 高速バス 8. 航空機 9. フェリー/旅客船
10. その他（）

本日の到着地は？

1 自宅 2 その他… 都道府県 市区町村名がわからない場合は、目印となる駅名、ホテル名、観光地名など

（国）外国へお出かけの方は国名をお書きください。

裏面もご記入下さい

問4 前記(問3)の行程の中で、途中の立ち寄り先がありますか？

(ある場合はその立ち寄り先をご記入ください。)

(立寄先)

都 道
府 県

市 区
町 村

← 市区町村名がわからない
場合は、目印となる駅名、
ホテル名、観光地名など

問5 何人でご旅行ですか。(あなたご自身も含めて)……→ ()人

問6 この列車にご乗車の運賃についておたずねします。ご利用の乗車券の種類はどれですか？(○はひとつ)

なお、各種ICカードの乗車券としての利用を含みます。

- | | | |
|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 1. 通常運賃の乗車券 | 2. 回数券乗車券 ^{※1} | 3. 往復割引乗車券 |
| 4. 団体割引乗車券 | 5. 早特割引の乗車券 | 6. 通勤定期乗車券 ^{※2} |
| 7. 通学定期乗車券 ^{※2} | 8. パック旅行、宿泊料金と同時に購入した乗車券 | |
| 9. フリーパス乗車券 | | |

※1. 新幹線回数券・〇枚きっぷ等を含みます。 ※2. 新幹線・特急・グリーン定期等を含みます。

問7 あなたご自身について以下の項目にお答えください。

お住まいは？

都 道
府 県

市 区
町 村

性別は？

1. 男 2. 女

年齢は？

- | | | | |
|------------|------------|------------|------------|
| 1. 14才以下 | 2. 15～19才 | 3. 20～24才 | 4. 25～29才 |
| 5. 30～34才 | 6. 35～39才 | 7. 40～44才 | 8. 45～49才 |
| 9. 50～54才 | 10. 55～59才 | 11. 60～64才 | 12. 65～69才 |
| 13. 70～74才 | 14. 75才以上 | | |

職業は？

- | | | |
|-----------|-----------|--------|
| 1. 役員・管理職 | 2. 会社員 | 3. 公務員 |
| 4. 農林・漁業 | 5. 商工・自営業 | 6. 自由業 |
| 7. 学生・生徒 | 8. 無職・その他 | |

ご協力ありがとうございました。

《調査員記入欄》

a. 調査列車名()

b. 車両の種類(1. 自由席 2. 指定席 3. グリーン席)



国土交通省

用語の解説

- 純流動 (Linked Trip)

交通機関の乗り継ぎ状況によらず、実際の出発地から目的地まで（目的に着目した）の移動（流動）を純流動といいます。

なお、交通機関毎の人の移動（流動）は、総流動 (Unlinked Trip) といいます。

- 最終アクセス交通機関

端末交通機関乗り継ぎにおいて、出発地側から幹線交通機関に乗るまでの交通機関をアクセス交通機関としています。本調査においては、幹線鉄道に乗車する直前に利用した交通機関のことを最終アクセス交通機関としています。

- 最初イグレス交通機関

端末交通機関乗り継ぎにおいて、幹線交通機関を降りた後に目的地までの交通機関をイグレス交通機関としています。本調査においては、幹線鉄道から降車した直後に利用した交通機関のことを最初イグレス交通機関としています。

- 50 都道府県ゾーン

全国47 都道府県を基本に、北海道を4 区分（道北、道東、道央、道南）に分けて、全国を50 の地域としています。

- 目的区分

本調査では、「仕事」「観光・行楽・レジャー」「私用・帰省」「通勤・通学」「その他」の目的区分に分けています。それぞれの目的は以下の通りです。

仕事： 業務での出張（本社や支店、取引先の訪問・視察・研修・コンベンション等への参加・講演や演奏会の開催や出演等）等、仕事目的での流動で、「仕事」の帰りも含みます。

観光・行楽・レジャー： 観光（名所・旧跡、催し物等を見る）、保養（温泉、家族・知人との交流等）、スポーツ・体験型レジャー（遊園地・ドライブ・釣り・写真等）目的での流動で、「観光・行楽・レジャー」の帰りも含みます。

私用・帰省： 「観光・行楽・レジャー」以外の帰省及び私用（実家への帰省・親類や友人宅への訪問・結婚式や葬式等への出

席・病人介護のための訪問等）目的での流動で、「私用・帰省」の帰りも含みます。

通勤・通学 : 通常の通勤（上記「仕事」に当てはまらない自らの勤務先への通勤）や通学での流動で、「通勤・通学」の帰りも含みます。

その他 : 上記以外の「その他」目的での流動で、「その他」の帰りも含みます。